

日本におけるAirbnbの経済効果

Airbnbのためのオックスフォード・エコノミクスによるレポート

オックスフォード・ エコノミクスについて

オックスフォード・エコノミクスは、海外に進出する英国企業や金融機関に経済予測とモデリングを提供することを目的として、オックスフォード大学ビジネスカレッジとの商業ベンチャーとして1981年に設立されました。以来、200以上の国と地域、100以上の産業分野、8,000以上の都市と地域に関する予測、分析ツールを提供しています。業界最高クラスのグローバル経済モデル・産業モデルおよび分析ツールは、外部市場動向を予測し、その経済的、社会的、ビジネス的影響を評価する比類なき能力を発揮します。

英国オックスフォードに本社を置き、ニューヨーク、ロンドン、フランクフルト、シンガポールに地域拠点を持つオックスフォード・エコノミクスは、世界中にオフィスを構えており、その拠点はベルファスト、ボストン、ケープタウン、シカゴ、ドバイ、ダブリン、香港、ロサンゼルス、メキシコシティ、ミラノ、パリ、フィラデルフィア、ストックホルム、シドニー、東京、トロントに及びます。350名を超える熟練のエコノミスト、産業の専門家、ビジネス編集者を含む、600名以上のスタッフを擁しており、マクロ経済の専門家とソートリーダーシップの専門家によるチームとしては最大規模を誇っています。当社のグローバルチームは、計量経済モデリングやシナリオ策定、経済効果の分析から、市場調査、ケーススタディ、専門家パネルおよびウェブ解析まで、幅広い調査手法やソートリーダーシップ能力に精通しています。

オックスフォード・エコノミクスは、企業、金融機関、および政府の意志決定者やソートリーダーに対する主要アドバイザーです。現在、世界有数の多国籍企業、金融機関、主要な政府機関、事業者団体、一流大学、コンサルティング企業、シンクタンクなど、2,500を超えるクライアントを世界中に有しています。



目次

1. はじめに	4
2. 日本におけるAirbnb関連の支出	8
2.1 Airbnbの観光動向	9
2.2 Airbnbゲストの支出	10
2.3 Airbnbホストの支出	12
3. Airbnbの経済効果	14
3.1 日本におけるAirbnbの総合効果	15
3.2 セクター別の効果	16
参考資料	20

用語集

Airbnbゲスト: Airbnbの宿泊施設に1泊以上滞在する個人。

Airbnbホスト: 個室かシェアルームにかかわらず、Airbnbプラットフォーム上に宿泊施設を掲載している個人または企業。

予約総額: ゲストがAirbnbの宿泊施設に対して支払った税込の金額。

ゲスト支出: Airbnbゲストが特定の国・地域への旅行中に支払った金額。これには、Airbnbの宿泊施設の賃貸に関わる支出(ホスティング収入とAirbnbの収益を含むが、売上税や宿泊税は除く)、旅行先での支出(現地の飲食店や小売店、現地での移動、その他の活動におけるもの)、さらに旅行先の国・地域との往復にかかる推定航空運賃の一部が含まれます。

ホスティング収入: Airbnbの宿泊施設の賃貸に関わるゲスト支出のうち、ホスト(宿泊施設を貸し出す個人または企業)が受け取る部分。

旅行・観光(単に「観光」ともいう): レジャー、ビジネス、および訪問地内から報酬を受けないその他の目的で、連続して1年を超えない期間、通常的环境以外の場所に旅行・滞在する人の活動。



セクション1: はじめに



Airbnbのユニークなプラットフォームは、日本国内のホストと世界中から訪れる観光客や旅行者をつなぐもので、ゲストがAirbnbの宿泊施設に滞在するたびに、地域に経済効果をもたらします。

Airbnbのプラットフォームは、日本の観光地における柔軟な宿泊施設の提供を可能にし、旅行者による訪問や財・サービスへの支出を促します。

Airbnbの予約が入るたびに、次の2種類の支出効果が生み出されます。

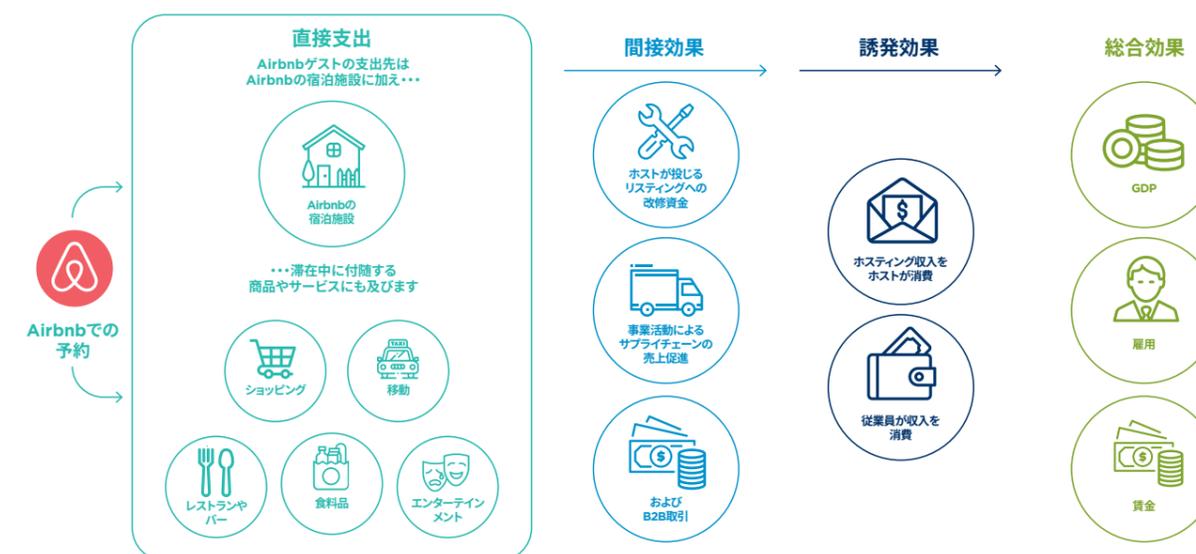
ゲストによる付帯的な財・サービスへの支出: Airbnbゲストは、旅行先との往復にかかる交通費に加え、滞在中に飲食店、小売店、食料品、芸術・エンターテインメントへの支出も行います。

ホスト支出: Airbnbホストは予約ごとに収入を得て、その収入を清掃などの定期的なサービスを含む宿泊施設の維持費に充てています。また、生活を支える財・サービスにもAirbnbの収入を費やしています。

こうした支出効果により、ホストや観光関連事業が地元のサプライヤーから財・サービスを購入し、そのサプライチェーンで働く従業員も収入を地域経済に還元することで、地域全体にさらなる経済効果が波及します。

日本における経済波及効果の評価の一環として、オックスフォード・エコノミクスは、こうした効果を分析するようAirbnbより依頼を受けました。分析を行うにあたり、当社は、Airbnbゲストの支出に関する主要データとオックスフォード・エコノミクスの観光データを、日本経済の独自モデルを含む当社のグローバル・サステナビリティ・モデルと組み合わせて活用しました。

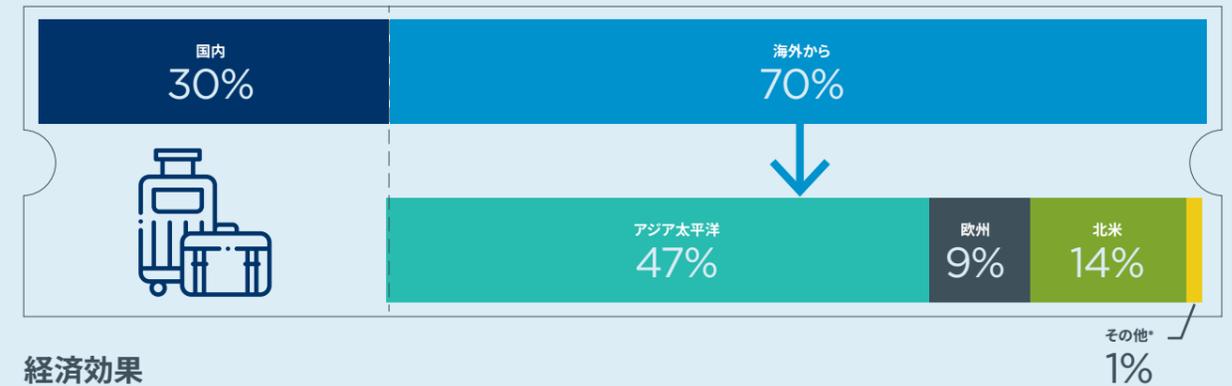
図1: 日本経済に対するAirbnbの貢献を示す概略図



出典: オックスフォード・エコノミクス

日本におけるAIRBNB

2024年におけるAirbnb旅行者の割合



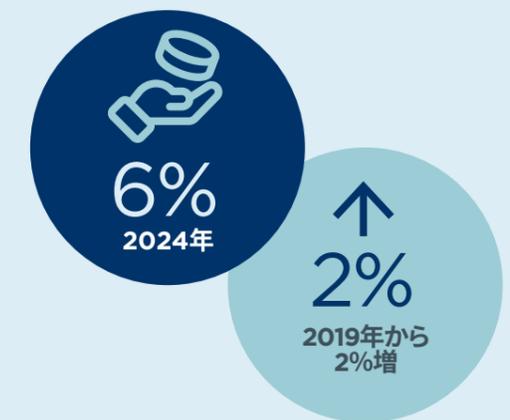
経済効果



旅行・観光業界が支えた雇用



宿泊施設への支出において非都市部が占める割合



- 飲食
- 卸売・小売
- 運輸・倉庫
- 製造
- 芸術・エンターテインメント・レクリエーション
- 保険・福祉サービス
- 情報・コミュニケーション
- その他

日本円の金額はすべて2024年の価格です。四捨五入により、合計が合わない場合があります。
* "その他"とは、ラテンアメリカ、アフリカ、中東、その他の地域を指します。

説明: Airbnbの経済波及効果の算出

Airbnbが地域経済にもたらす効果を定量化するため、当社では経済効果評価として知られる世界的に認められた標準的な分析手法を採用しています。これには、日本の経済におけるAirbnbのゲストとホストによる総支出を定量化し、その支出によって刺激される3種類の経済活動を推定することが含まれます(図1の概要を参照)。

直接効果は、ホストによって付加される価値を含め、Airbnbゲストに宿泊を提供する事業者によって付加される価値に関連します。

一次波及効果は、こうした"最前線"の事業者を支えるサプライチェーンに沿って刺激される経済活動および雇用が対象となります。

二次波及効果は、Airbnbゲストにサービスを提供する事業者や他のサプライチェーンの事業者の従業員に支払われる賃金の支出から生じる、より広範な経済的利益で構成されます。これには、地域経済に還元されるAirbnbホストの収入の一部も含まれます。この分析では、小売店、レジャー施設、その他販売店のサプライチェーンで刺激される経済活動まで範囲を拡大して評価を行っています。

これらの区分の合計がAirbnbの経済波及効果となり、その結果はグロスベースで示されます。そのため、Airbnbの競合他社に取って代わる活動や、これらのリソースの2番目に生産的な用途が何であったかはいずれも考慮されません。Airbnbの経済的貢献度は、次の3つの指標を使用して測定されます。

国内総生産(GDP): より具体的には、GDPに対する粗付加価値(GVA)の貢献¹。これは、生産された産出物の価値から、その産出物の生産に使用された購入品やサービスの投入に対する支出を差し引いたものと定義されます。

雇用: 人数ベースで測定されます。

賃金: 1年を通して従業員が労働で得た金額です。

当社の分析手法に関する詳しい説明は、本レポートの参考資料に記載されています。

¹ GDPは、GVAと税金の合計から生産に対する補助金を差し引いた金額に相当します。

セクション2： 日本におけるAirbnbに 関連する支出

2024年中、Airbnb
ゲストによる日本での
宿泊費および宿泊以外
の支出総額は7150億
円でした。

2.1 Airbnbの観光動向

2024年に日本に滞在したAirbnbゲストの大半は海外からの旅行者で、ゲスト総数の70%を占めました²。この割合は、新型コロナウイルスの世界的大流行前の2019年と比べて減少しています。当時、海外からの旅行者はAirbnbゲストの80%を占めていました。2024年に日本を訪れた海外からのAirbnbゲストの半数以上は、アジア太平洋地域からの旅行者でした。この割合は2019年以降減少しており、現在では、新型コロナウイルスの世界的大流行前と比べて、北米および欧州からのゲストが海外からのゲスト全体に占める割合が高くなっています。

2024年のAirbnbを利用した海外からのゲストのうち、最も多かった国は韓国と米国で、それぞれ海外からの全ゲストの約16%を占めました。これに僅差で続いたのが中国本土で、海外からのゲストの13%を占めました。2024年の海外からのゲストのうち、中国本土が占める割合は2019年に比べて減少しました。当時、中国本土は海外からのAirbnbゲストの28%を占め、最も多い出発地域となっていました。

図2：日本に滞在したAirbnbゲスト（出発地域別、2019年～2024年）³

出発地域	2019	2020	2021	2022	2023	2024
国内	20%	61%	94%	80%	35%	30%
海外	80%	39%	6%	20%	65%	70%
アジア太平洋地域	61%	28%	2%	11%	43%	47%
欧州	7%	3%	1%	2%	7%	9%
北米	12%	6%	4%	6%	14%	14%
その他	1%	1%	0%	0%	1%	1%

出典：Airbnb、オックスフォード・エコノミクス。四捨五入により、合計が合わない場合があります。

図3：日本に滞在したAirbnbゲストの出発地域トップ10（2019年～2024年）

順位	出発地域	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	韓国	10%	6%	2%	19%	19%	16%
2	アメリカ合衆国	12%	14%	63%	28%	18%	16%
3	中国本土 ⁴	28%	26%	15%	7%	8%	13%
4	香港特別行政区	8%	9%	1%	7%	9%	8%
5	台湾	7%	7%	1%	4%	7%	7%
6	オーストラリア	5%	8%	1%	5%	6%	6%
7	シンガポール	4%	3%	1%	7%	6%	5%
8	フランス	2%	2%	2%	2%	3%	4%
9	フィリピン	3%	4%	1%	2%	3%	3%
10	カナダ	2%	2%	1%	2%	3%	3%

出典：Airbnb、オックスフォード・エコノミクス。

² 本レポートで言及されているすべての年限は、特別の定めのない限り、暦年を指します。

³ "その他"とは、ラテンアメリカ、アフリカ、中東、その他の地域を指します。

⁴ 本レポートにおいて、中国本土を指し、香港特別行政区、マカオ特別行政区、台湾は含まれません。

2.2 Airbnbゲストの支出

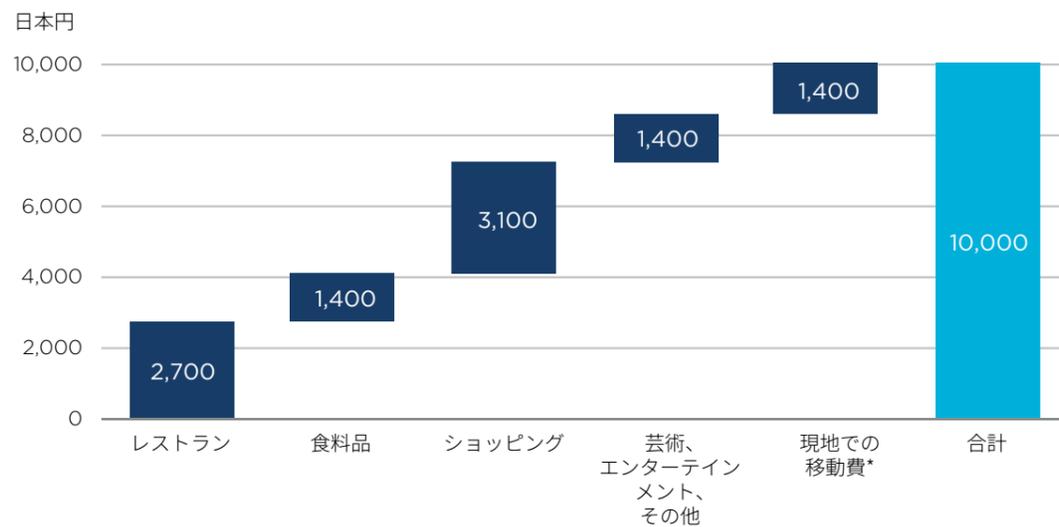
2024年中、Airbnbゲストによる日本での宿泊費および宿泊以外の支出総額は7150億円で、そのうちの大半が後者に費やされました。

日本を訪れたAirbnbゲストはAirbnbの宿泊先に平均3日滞在し、飲食店、小売店、現地での移動など宿泊以外の費用に1日あたり平均26,000円支出しました⁵。

そこで、どのような観光関連事業に対して支出が行われているかを把握するため、Airbnbゲストの支出パターンを分析しました。

ショッピングは、宿泊費を除いた旅行先における支出の最大カテゴリであり、宿泊以外の支出10,000円あたりの約3分の1を占めました。外食は2番目に大きな支出カテゴリで、宿泊以外の支出10,000円あたり2,700円を占めました。一方、芸術・エンターテインメント、現地での移動、食料品はそれぞれ、宿泊以外の支出10,000円あたり1,400円を占めました。

図4: Airbnbゲストの旅行先での支出のカテゴリ別分布(日本、2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス。四捨五入により、合計が合わない場合があります。
*航空運賃を除く。

5 1日あたりの支出とは、特にAirbnbゲストによる1泊あたりの支出を指します。平均滞在日数とは、ゲストが旅行先でAirbnbの宿泊施設に滞在する平均(算術平均)宿泊日数を指します。

都市部以外の旅行先でのAirbnbゲストの支出分布

新型コロナウイルスの世界的大流行の中で、日本のAirbnbゲストが選ぶ旅行先は明らかに変化し、都市部以外の地域へと移りました。このような旅行先の変化は、健康や安全を考慮するようになったことや、国内旅行者の間で日本の主要都市以外の地域を探索したいという意識が高まっていることによるものと考えられます。

2024年のAirbnbの予約総額(GBV)に占める非都市部の割合は、6%となりました。これは、2021年のピーク時の11%からは減少したものの、2019年の4%と比べて2ポイント増加しています。新型コロナウイルスの世界的大流行中に増加した滞在先に占める非都市部の割合は、海外旅行の再開により一時よりは低下しましたが、近年では一貫してコロナ以前よりも高い水準で推移しており、この旅行先の変化が示唆されています。

図5: 日本における予約総額に占める非都市部の割合(2019~2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス。



2.3 Airbnbホストの支出

Airbnbゲストとホストの合計支出は、日本経済におけるさらなる活動において大規模で広範囲にわたる連鎖を呼び起こします。

日本におけるAirbnb関連の支出の大半はゲストの支出が占めていますが、Airbnbホストも地域コミュニティにかなりの支出効果をもたらしています。Airbnbホストが受け取るホスティング収入の一部は、宿泊施設のメンテナンスや改善に充てられます。これには、清掃サービスや光熱費などの運営費、または宿泊施設の改装や修繕にかかる地元の建設会社や業者への支出など、地域経済の企業からの財・サービスの購入が含まれます。また、Airbnbホストが受け取るホスティング収入は、生活を支える財・サービスにも使われることがあります。

“
 地元の子どもたちが
 海外からのゲストと
 気軽に話しているの
 を見かけると、旅行は
 人々の成長に役立つ
 ものだ実感します。
 ”

注目のホスト: 豊田泰郎さんと愛子さん(大阪)

豊田泰郎さんと愛子さんは、大阪の中心部にあるご自宅をAirbnbのリスティングとして掲載しています。ゲストを温かく迎えるその家には、大阪に対する2人の深い愛情があふれています。「愛着のある故郷でホストになる気持ちが強かったんです」と泰郎さんは話します。大阪は「ガイドブックがいない街」だと考える泰郎さんは、「案内してくれるのは地元の人たちです。大阪の人たちはフレンドリーで思いやりがあります」と続けます。

豊田さんご夫妻は、上質な家具や地元のアート作品を取り入れた心地よい空間をつくり、近隣の職人たちの素晴らしさを紹介しています。購入のたびに地元の事業者を支援し、地域コミュニティの強化にも貢献しています。また、リスティングでさまざまな地元の商品を紹介して、近隣のお店や市場への訪問をゲストに促しています。

多くのゲストは、当初は1泊だけの予定で訪れますが、大阪の活気ある雰囲気魅了されてしまいます。「ゲストの中には1泊だけのつもりが、1週間、10日間と滞在を延ばす方もいます」と泰郎さんは振り返り、人とのつながりが生み出す「力」を実感しています。

ご夫妻のお子さんたちも、海外からのゲストと気負うことなく打ち解け、会話したり笑い合ったりしているそうです。「子どもたちが海外からのゲストに自然に話しかけている姿を目にすると、旅行は人を成長させてくれるものだ実感します」と愛子さんは語ります。

豊田さんご夫妻は、おもてなしを通じてゲストの体験を豊かにするだけでなく、地域経済にも貢献しています。豊田さんご夫妻のご自宅は、異文化間の架け橋として互いの理解と友情を育て、宿泊以上の体験を求めるゲストにとって、大阪が心に残る旅先となる上で一役買っています。

セクション3: Airbnbの経済

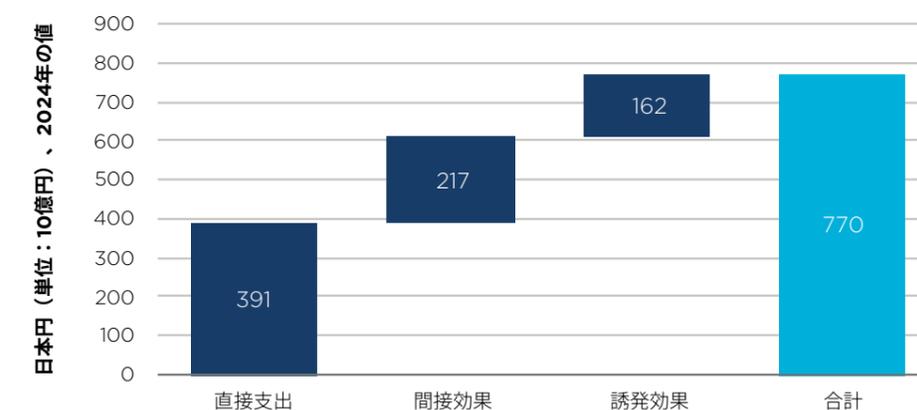
2024年のAirbnb
に関連する支出は、
日本のGDPに約
7700億円寄与し
ました。

3.1 日本におけるAirbnbの総合効果

2024年のAirbnbに関連する支出は、日本のGDPに約7700億円寄与しました。この金額は、国内GDPの0.1%に相当します。また、Airbnbによって経済活動が刺激され、合計87,800人分の雇用が支えられました。これも、国内総雇用の0.1%に相当します⁶。こうして支えられた雇用に対して支払われた賃金および給与の総額は、1400億円と推定されています。

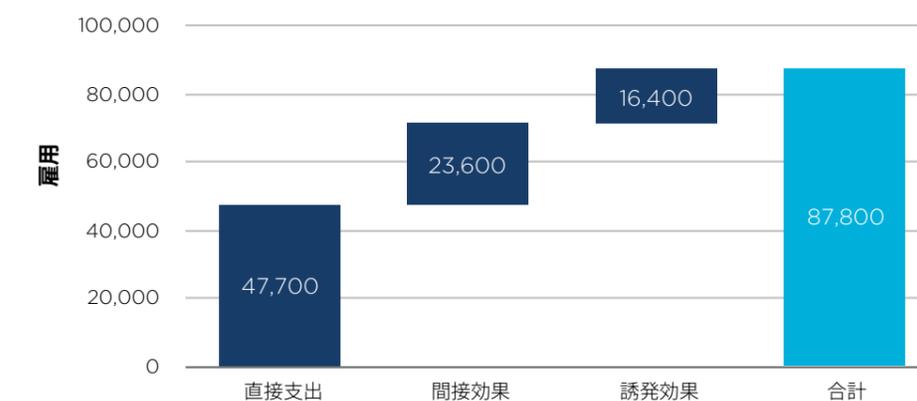
そこで、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)の推計に基づき、日本における旅行・観光全体の経済効果と比較して、Airbnbの経済効果の規模を分析しました。当社の分析によると、Airbnbは日本における旅行・観光セクター全体のGDPの1.6%、総雇用の1.5%を占めていたと推定されます。つまり、2024年に旅行・観光業界が支えた雇用のうち、約67人に1人がAirbnbに関連していたことになります。

図6: 日本におけるAirbnbの経済効果 (2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス。

図7: Airbnbによって支えられた日本の雇用 (2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス。

⁶ 経済フットプリント分析は、Airbnbの活動による純効果ではなく、経済波及効果を示すものです。そのため、当社の推計では、Airbnbが存在しなかった場合に他の需要によって支えられていた可能性のある雇用について、純効果としての調整は行っていません。総体的な指標として、Airbnbの活動によって創出された雇用ではなく、「支えられた」雇用を指しています。詳しくは、参考資料をご参照ください。

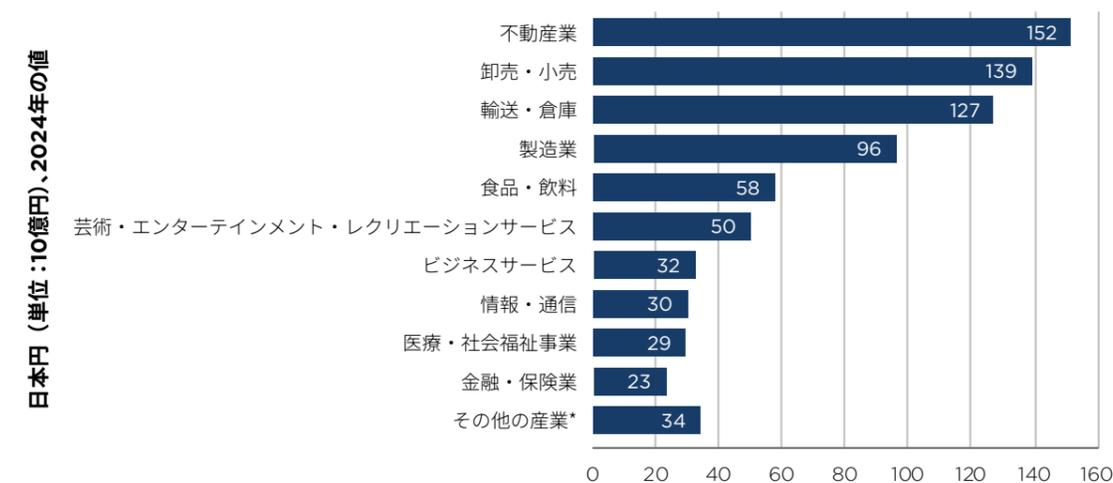
3.2 セクター別の効果

ゲストの直接支出の大部分を占めるセクターは、Airbnb関連の活動によるGDPへの寄与度も最も高くなりました。これには、不動産⁷(1520億円)、卸売・小売⁸(1390億円)、輸送・倉庫⁹(1270億円)の各セクターが含まれます。

不動産セクターにおける経済効果の大部分は、Airbnbの宿泊施設へのゲスト支出(69%)に起因していますが、残りは、個人が賃金の一部を住宅に費やすことによる賃金支出(つまり、二次波及効果)によって大きく刺激されています。卸売・小売セクターにおけるGDPへの影響のうち、最も大きな割合を占めるのは、ショッピングや食料品などの小売活動に対するAirbnbゲストの直接支出です。運輸・倉庫セクターでは、GDPへの総合影響の81%が、Airbnbゲストによる現地での移動や航空運賃への直接支出に起因したものです。

製造セクターにおけるGDPへの影響の半分は、小売店や食料品店などの店舗を通じてAirbnbゲストに直接サービスを提供する観光関連事業のサプライチェーン支出によるものです。このセクターは、小売業、食料品店、ホスピタリティ事業者がAirbnbゲストに販売する食品や衣類などの中間財を提供しています。

図8: 日本におけるAirbnbの経済効果 (セクター別、2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス
*農業、林業、電気、ガス、水道などを含む

Airbnbゲストの支出を最も多く受けたセクターでは、雇用数の面で最も大きな影響を受けました⁴。これには、Airbnbが約17,000人分の雇用を支えた飲食サービスセクターと、14,400人分の雇用を支えた小売セクターが含まれます。Airbnbゲストのダイニング体験、ショッピング、

食料品への支出に伴う直接効果は、これら2つのセクターで支えられた総雇用件数の85%と42%をそれぞれ占めました。

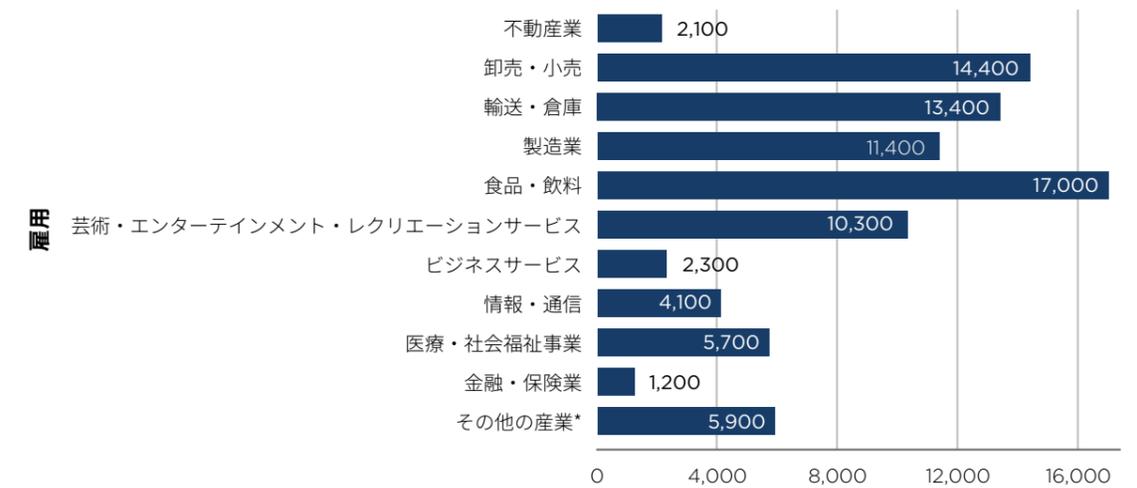
7 このセクターには、住宅および商業用不動産の賃貸またはリース、不動産業者のサービス、所有者占有住宅の賃料代替価値などのサービスが含まれます。

8 このセクターには、商人や仲介業者による企業への、および小売業者による一般市民への、大幅な変形を伴わない商品のコミッションベースの売買などのサービスが含まれます。

9 このセクターには、陸路、空路、水路の輸送、ならびに倉庫および保管施設などのサービスが含まれます。

なお、Airbnbがもたらす効果は、こうした観光関連事業のサプライチェーンにも見られ、製造セクターでは11,400人分、医療および社会福祉事業などの保健・福祉サービスでは5,700人分の雇用が支えられました。

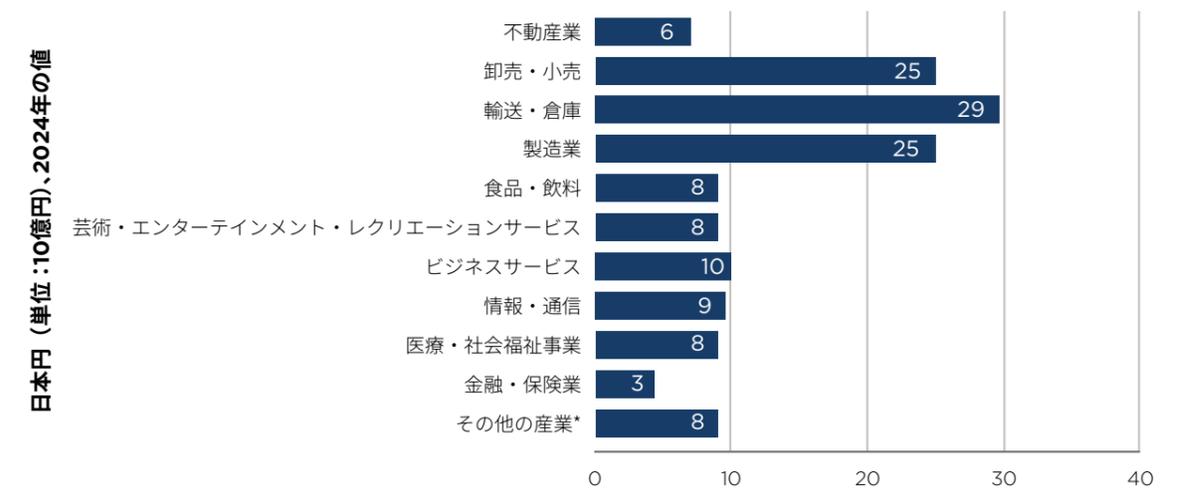
図9: Airbnbによって支えられた日本の雇用 (セクター別、2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス
*農業、林業、電気、ガス、水道などを含む

セクター別の賃金効果の内訳は、セクター別の雇用分布とほぼ一致しています。輸送・倉庫セクターは、どのセクターよりも賃金効果が大きく、Airbnb関連の活動によって支えられた賃金は290億円にのぼりました。これに、卸売・小売(250億円)、製造業(250億円)が続きます。

図10: Airbnbによって支えられた日本の賃金 (セクター別、2024年)



出典: Airbnb、オックスフォード・エコノミクス
*農業、林業、電気、ガス、水道などを含む



技術付録

データ出典

当社の分析には、Airbnb、WTTC、世界観光機関 (UNWTO)、各国の観光庁、第三者機関 (ホテル、業界団体など)、およびオックスフォード・エコノミクス のデータバンクから得られた詳細なデータを使用しています。

Airbnb

Airbnbから提供されたデータには、Airbnbゲストの活動量 (ゲスト数と宿泊施設の収益) およびAirbnbリスティングの件数が含まれます。このデータは、2024年の各地域を対象としています。その他のデータには、出発地域ごとの各旅行先を訪れるゲストの人数が含まれます。

また、Airbnbは、無作為に抽出した各国・地域のゲストに対して毎年実施しているゲスト向けアンケートに基づく、ゲストの支出データも提供しています。このアンケートはクアルトリクスを介して実施され、メールで送信されます。アンケートへの回答に対する謝礼や報酬などはありません。

WTTCとオックスフォード・エコノミクスによる、旅行・観光の経済的重要性に関するグローバル分析

オックスフォード・エコノミクスは、30年以上にわたって世界旅行ツーリズム協議会 (WTTC) の協力のもと、185の国・地域を対象とした経済効果に関する調査を毎年実施し、世界、国、地域、都市単位で旅行・観光が世界経済にもたらす社会経済的便益を定量化しています。この調査での数値は、当社の分析に使用されています。

WTTCは、旅行・観光セクターが雇用、GDP、商業および投資に対して世界、国、地域単位でもたらす直接効果、一次波及効果、二次波及効果を調査し、その研究結果を発表する唯一の世界的組織です。これらの研究については、<https://www.wttc.org/economic-impact/>で確認できます。オックスフォード・エコノミクスは最近、観光産業の経済効果をほかのセクターと比較するベンチマークを行うとともに、観光産業における若年層および女性の雇用パターンなどの問題を分析するため、さらなる研究を進めています。

オックスフォード・エコノミクス

オックスフォード・エコノミクスは、子会社のTourism Economicsを通じて、185の国と地域にわたる旅行・観光活動に関するグローバルデータベースを保持しています。今回のAirbnbの調査で使用したデータには、海外からの旅行者1人あたりの交通費、出発地から目的地までの距離、特定の旅行・観光サテライト勘定の分析が含まれます。

ゲスト支出の分析

Airbnbゲストの支出総額は、Airbnbゲストの活動に関する詳細情報、Airbnbゲストの支出パターンに関するアンケート、および各出発地域で推計される交通費を含む、当社が開発したデータベースに基づいて定量化されています。この分析では、Airbnbによって提供されたアジア太平洋地域 (APAC) の10か国にわたる非常に詳細な取引ベースのデータ、およびオックスフォード・エコノミクス独自のデータベースと研究を活用しました。

Airbnbゲストの支出を構成する主な要素は、1) 宿泊支出 (すなわち、Airbnbのデータに基づく予約総額)、2) 旅行先でのAirbnb以外でのゲスト支出、3) 各市場に配分される航空運賃収入の割合です。

予約総額 (GBV) は、Airbnbから直接提供されたデータであり、ゲスト1人あたりのGBVおよび海外・国内の内訳という観点から一貫性があるかどうかをオックスフォード・エコノミクスにて確認しています。GBVは、ホスティング収入および宿泊日の収益として計上されるため、キャンセルされた予約は含まれません。本レポートにおけるGBVの数値は、2023年の調査で使用された数値とは異なります。2023年の調査では、Airbnbプラットフォーム上のGBVの合計が使用されており、その一部にはキャンセルされた可能性のある予約も含まれていました。GBVデータの見直しにより、本調査における非都市部のGBVの過去の割合は、前回の調査と比べて若干異なる可能性があります。GBVデータは、都市部、都市部以外の内訳と共に提供され、後者は、衛星画像データに基づいて都市化されていないと判断された地域にあるリスティングを指します。

ゲストによる旅行先での支出には、地域経済での財・サービスの購入が含まれます。外食、ショッピング、アクティビティなど、宿泊以外のゲスト支出を推計するため、Airbnbのゲスト向けアンケートデータをもとに、カテゴリ別のゲスト支出をモデル化しました。また、推計を裏付けるため、国レベルおよび都市レベルの旅行動向と支出に関するオックスフォード・エコノミクス (OE) のデータも使用しています。これらは、UNWTO、各国の観光庁、第三者機関 (ホテルや業界団体など) のデータ、収支統計データ、およびOE独自の推計に基づいています。

Airbnbの旅行先への往復を含む**航空運賃**は、3つの要素で構成されています。**外国人旅行者のインバウンドおよびアウトバウンドの移動支出**は、国・地域ペアごとの出発地から目的地までの推定移動距離と、旅行・観光サテライト勘定および収支統計データによる移動支出の比率をもとに推計しています。なお、分析対象の出発地と目的地 (国・地域) に影響をもたらす支出部分のみを反映するため、交通費の推計額を調整しています。**国内ゲスト**の場合、現地での総移動支出 (航空運賃を含む) から、Airbnbの調査データに基づく国内ゲストによる旅行先での現地移動支出を差し引くことで、航空運賃の総収入を算出しました。国内の地域レベルでは、空港の所在地と航空旅行に関する第三者のデータに基づき、対応する国の航空交通量に対してそれぞれの小地域が占める割合を使用して推計しています。

この結果は、Airbnbゲストの支出の範囲と規模を定量化し、それに伴う経済効果の詳細な評価をサポートするための詳細な基盤となります。

経済効果の推計手法

本レポートでは、Airbnbが地域の観光事業を支援する方法に焦点をあて、経済効果の枠組みを構築しました。算出された経済的利益の大部分は、旅行先で発生した宿泊以外の支出によるものです。

しかしながら、ホストが受け取る宿泊施設の総収入によって支えられる経済効果についても一部考慮しています。当社では、a) 宿泊施設を維持するためにホストが調達する中間投入財（清掃サービスなど）と、それを支える後続のサプライチェーンによって生じる経済効果、b) 経費と貯蓄を考慮した上で、宿泊施設の収入によって生じるホストの支出増加による経済効果、c) ホストのサプライチェーンで働く従業員が自身の収入を使うことによって生じる経済効果を推計しています。また、対象地域の経済におけるAirbnb自体の活動も考慮しています。

3段階の効果

APACの国と地域におけるAirbnbの存在によって生み出された経済的貢献度を評価する際には、主に次の3つの段階の効果を考慮しました。

- 経済効果評価の中心にあるのは、**直接効果**です。これは、特定の国・地域におけるAirbnbの存在に関連した支出の直接的な受益者によって生じる効果です。この枠組みにおいて、直接効果をもたらす主な原動力はゲストの財・サービスに対する支出で、観光客向け産業の活動を刺激します。また、対象地域の経済におけるホストやAirbnb自体の活動も含まれます。
- 第2段階の効果で焦点となるのは、直接購入を支えるために必要なサプライチェーンです。この**一次波及効果**は、投入物を財・サービスという形で調達するために、経済のほかの部分で生み出される活動を表します。例としては、旅行者が購入する商品の製造や、農業や漁業を通じた生鮮食品の調達があげられます。また、清掃やメンテナンスといったAirbnbの宿泊施設の運営をサポートするサービスと、情報通信事業者やその他のビジネスサービスへの支出といったAirbnbオンラインプラットフォームの運営費も含まれます。
- 最後は、**二次波及効果**として知られる効果です。これは、Airbnbに関連する直接的および間接的な活動を通じて雇用された人々の消費支出によって刺激された活動を指します。また、こうした経済活動から国内のサプライチェーンに沿って維持される追加需要も含まれます。これにはさらに、事業コストや控除額を調整した上で、地域経済に還元されるホストの収入の割合も含まれます。この枠組みにおいて、ホスティング収入の経済的影響は主に、ホストの消費力を高めるとされる二次波及効果によって推計されます。

Airbnbの**経済波及効果**は、直接効果からほかの経済全体に波及するため、これら3つの段階をまとめることでその全体像がみえてきます。

Airbnbの経済効果を効果的に定量化するには、経済規模の測定に使用されるのと同じ用語で貢献度を評価する必要があります。そのため、効果評価では通常、国内総生産（GDP）に対する粗付加価値（GVA）の貢献度、および雇用という2つの指標に焦点をあてます。

1つ目の指標となるGDPに対するGVAの貢献度は、純生産量を示す指標です。事業体のGDPに対するGVAの貢献度は、生産（またはアウトプット）アプローチ、所得アプローチ、支出アプローチの3つの異なるアプローチで推計することができます。国連統計部（UNSD）は、これら3つの手法について、次のように明確に定義しています。

「生産アプローチでは、（中略）会計期間内に産出物を生産するために使用された財・サービスの金額を産出額から差し引いたものとしてGDPを測定します」

「所得アプローチでは、経済に生み出された要素所得（従業員に支払われる賃金、給与、賞与、生産にかかる税金、生産者の営業余剰）の合計としてGDPを測定します」

「支出アプローチでは、最終消費支出、総資本形成、輸出から輸入を差し引いた額の合計として、生産された産出物の最終消費を測定します」

いずれのアプローチを使用しても、粗付加価値は個々の生産者による経済への貢献の尺度を表します。国民経済における全企業を集計する際には、GVAの合計がGDPとなります。GDPは、国・地域の経済景気を概略的に示す主な指標の一つです。経済成長（または景気後退に陥る時期）に関する言及は、通常GDPの変化率に関連しています。

企業の経済的貢献度を測定するためのもう一つの指標は、雇用です。これは、従業員数、フルタイム換算、雇用年数の3つの方法で定義できます。従業員数の雇用指標とは、雇用形態がフルタイムかパートタイムかにかかわらず、雇用されている人の数を指します。農業雇用の推計には、自給自足型農業を考慮して調整が加えられています。自給自足型農業は、基本的に市場経済に参加していない農業労働力の一部にあたるため、雇用の推計対象から除外しています。

経済効果調査におけるグロス方式とネット方式

特定の事業体の経済に対する中核的な総貢献度は、直接効果、一次波及効果、二次波及効果の3つの合計で表されます。標準的な慣行に従い、当社ではネット方式ではなくグロス方式でAirbnbの効果を示しています。そのため、Airbnbの貢献度を測定する際には、Airbnbの経済活動をサポートするために事業体や給与所得者によって付加された価値の合計を推計しますが、その活動がなかった場合にそのリソースがどのように使用されたか、つまり2番目に生産的な用途が何であったかについては考慮しません。このような評価にネット方式を採用することは、反事実的なシナリオについて多くの仮定を必要とするため、より複雑で議論の余地が残ります。

Airbnbの中核的な効果の測定

I-O (産業関連表) モデルは経済を詳細に表しており、さまざまな産業、家計、政府、外部セクター間の主要な相互作用と支出の流れを示しています。I-Oモデルは、経済において誰が何を、誰から購入するかを示す表です。本調査で使用した国際I-Oモデルにより、同じ構造を通じてすべての国・地域を分析するための基盤が構築され、各国・地域の分析を完全に比較できるようになっています。

直接効果

直接効果を把握するには、Airbnbの宿泊施設に関連する支出の直接的な受益者となる産業を分析する必要があります。この支出には、以下が含まれます。

- Airbnbゲストの支出を受ける観光関連事業の収益
- プラットフォーム手数料によるAirbnbの収益
- Airbnbホストの収益

これらの収益額は、直接総生産額の合計を表しています。次に、I-O表を使用して、GDPに対する直接的なGVAの貢献度の一部とみなすべき収益の割合を定量化し、直接効果を分析しました。これは、雇用コスト、営業余剰、生産にかかる税金の合計として(すなわち、所得アプローチによって)算出されています。

Airbnbの直接雇用による効果は、GVAの貢献度と各国・地域内のさまざまな産業の雇用との関係に基づいて推計されました。出典データは、さまざまな国家統計機関およびオックスフォード・エコノミクスから収集しました。

間接的および誘発的な経済効果

I-O表を使用し、直接効果から流れる財・サービスの中間購入の構造を推定しました。この支出を支えたサプライチェーン全体を追跡し、その過程で発生した賃金、利益率、税金、輸入を考慮しました。ここから、一次波及効果によるGDPに対するGVAの貢献度を推計しています。これらの効果が支える雇用は、直接効果に関して前述したものと同一手法を使用して分析しました。

二次波及効果では、給与取得者が直接効果および一次波及効果を介して得た賃金を消費し、Airbnbのホスト、およびサプライチェーンの事業者で働く従業員が賃金を消費することによって経済に生じる価値が考慮されます。従業員の賃金支出は、税金と貯蓄を踏まえ、総収入の一部として家計支出の金額を考慮した上で調整しています。また、OECDのデータに基づき、貯蓄額とホスティング収入に対する税のくさびも考慮して調整しています。I-O表から得た各国・地域の家計支出の構造に基づき、この支出額をさまざまな産業セクターに分布させた上で、これが経済全体にもたらした効果を追跡しました。雇用の効果は、前述のとおり、この推計から導き出されています。

四捨五入の規則

雇用数値は、最も近い100単位に切り捨て、もしくは切り上げられます。その他のすべての統計値は、最も近い整数に四捨五入されています。また、小数点を含む値は小数点以下1桁に四捨五入されています。

オックスフォード・エコノミクス

2025年5月

図表で示されるすべてのデータは、特に脚注での言及や引用表記がない限り、オックスフォード・エコノミクス独自のデータであり、著作権はOxford Economics Ltd.にあります。

本レポートはAirbnbの機密情報であり、Airbnbの書面による事前の許可がない限り公開または配布することはできません。

ここで示されるモデリングおよび結果は第三者から提供された情報に基づいており、オックスフォード・エコノミクスはその情報に基づいて誠実に本レポートおよび予測データを作成しました。ここで示される評価および予測は、これらのデータのその後の改訂および更新による影響を受けます。

本レポートに関する詳細は、下記までご連絡ください。

James Lambert

jlambert@oxfordeconomics.com

オックスフォード・エコノミクス

6 Battery Road, #38-05

Singapore 049909

電話番号: +65 6850 0125

www.oxfordeconomics.com

連絡先

グローバル本社

Oxford Economics Ltd
60 St Aldates, Oxford,
OX 1 1ST, UK

電話番号:+44 (0)1865 268900

ニューヨーク

5 Hanover Square,
8th Floor, New York
NY 10004, USA

電話番号:+1 (646) 786 1879

メール:

mailbox@oxfordeconomics.com

ウェブサイト:

www.oxfordeconomics.com

ロンドン

4 Millbank, London,
SW1P 3JA, UK

電話番号:+44 (0) 203 910 8000

シンガポール

6 Battery Road
#38-05

Singapore 049909

電話番号:+65 6850 0110

詳細な連絡先情報:

[www.oxfordeconomics.com/
about-us/worldwide-offices](http://www.oxfordeconomics.com/about-us/worldwide-offices)

フランクフルト

Marienstr. 15
60329 Frankfurt am Main
Germany

電話番号:+49 69 96 758 658

欧州、中東、アフリカ：オックスフォード・ロンドン・ベルファスト・ダブリン・フランクフルト・パリ
ミラノ・ストックホルム・ケープタウン・ドバイ・アメリカ大陸：ニューヨーク・フィラデルフィア
ボストン・シカゴ・ロサンゼルス・トロント・メキシコシティ・アジア太平洋：シンガポール・香港・東京・シドニー